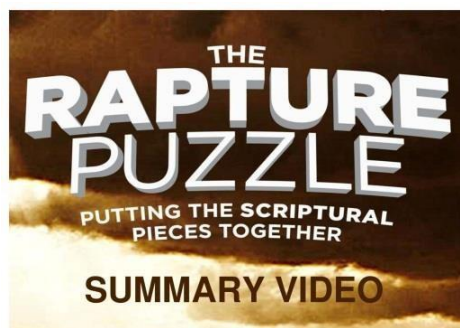
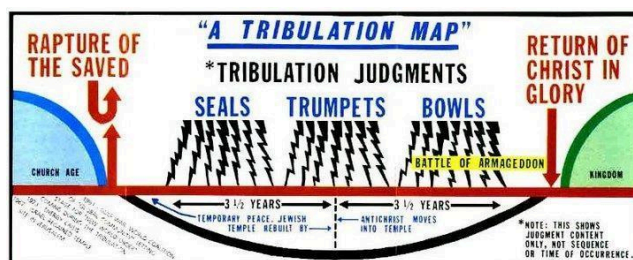




皆さん、こんにちは。今回は「携挙パズル」という本の要約をしたいと思います。主は25年以上前に私をこの旅へと導き始め、2012年から現在に至るまで、つまり約14年間、このパズルのピースを少しずつ明らかにしてきました。聖書は、私たちが今生きている終末のパズルを描き出していると信じています。聖書は、これから起こる出来事がいつ起こるかを正確に示しており、それらの出来事が起こった時に、主がすべてを支配し、最初から最後まで計画しておられることを知っているの

で、恐れる必要はありません。主は人類のために7000年の計画を持っており、最初の6000年がまもなく終わり、新しい千年紀が始まろうとしています。その千年紀では、主は花嫁である選ばれた民と共に、地上で1000年間統治されます。主を救い主、主として受け入れることで、誰もが主の花嫁の一員となることができます。主は、誰も滅びることなく、すべての人が永遠の命を得ることを望んでおられます。

ほとんどのクリスチャンは、終末の出来事がどのように展開するかについての最も一般的な見解を受け入れており、その教えは概ね次のとおりです。イスラエルで7年間の平和条約が締結されることから始まる7年間の大患難時代が地上に訪れます。この7年間の終わる直前に、主は携挙によってご自身の民を救い出し、その後、残された人々に対して7年間の恐ろしい裁きの期間が訪れます。この7年間の患難時代の半ばに、新たに再建されたユダヤの神殿で動物のいけにえがすでに始まっており、このいけにえは、イスラエルとの平和条約を始めた反キリストによって止められます。これらのいけにえが止められたとき、ユダヤに住む人々は山に逃げなければなりません。なぜなら、この忌まわしい出来事の直後に荒廃の出来事が起こり、その後、私たちが天からキリストと共に戻って地上を統治する前に、さらに3年半の裁きが地上に続くからです。



この7年間の患難時代の半ばに、新たに再建されたユダヤの神殿で動物のいけにえがすでに始まっており、このいけにえは、イスラエルとの平和条約を始めた反キリストによって止められます。これらのいけにえが止められたとき、ユダヤに住む人々は山に逃げなければなりません。なぜなら、この忌まわしい出来事の直後に荒廃の出来事が起こり、その後、私たちが天からキリストと共に戻って地上を統治する前に、さらに3年半の裁きが地上に続くからです。



もしあなたがクリスチャンなら、この概要はとても馴染み深いものに聞こえるでしょう。これは私が教会で育った時に教えられたことです。しかし、私は常に物事に疑問を抱いたり、異議を唱えたりするタイプで、このタイムラインに完全に固執したことはありませんでした。例えば、黙示録12章には、女性が神によって用意された場所に3年半だけ連れて行かれたと書かれているのを見ました。聖書には3年半、あるいは「時」「時と半時」「42ヶ月」「1260日」といった表現が数多く出てくるのに、なぜ教会は携挙が7年間の大患難時代が始まる前に起こらなければならないと強く主張するのか疑問に思いました。1290日と1335日という日数も、どちらも3年半前後です。おそらく私は、最後の7年間のうち半分だけが実際に地上で大患難の時代になるという、中期患難説に傾いていたと言えるでしょう。

正直に言うと、私は終末の聖書預言にそれほど興味がありませんでした。2001年1月4日午前1時、主が私に語りかけ、私がバプテスマのヨハネのようになり、来るべき欺瞞から何百万人もの人々を救うための何かを書くようにと告げるまで、主が私に預言を研究し、聖書から主の終末計画がどのように展開していくかを理解してほしいと望んでおられることを知りませんでした。そして2012年、主は私にこのパ

ズルのピースを与え始め、研究すべき日付や祭りを指し示し、ゆっくりと、しかし確実にこの本が完成しました。今ではパズルの全体像が見えており、ここで皆さんと分かち合いたいと思います。

パウロの旅の仲間であったバルナバの手紙は、主が人類のために7000年の計画を持っており、6000年後にキリストが地上に戻り、1000年間地上を統治すると述べている。これは初期教会で広く教えられており、聖書全体を通して示唆されている。バルナバの手紙第15章3～5節より。

彼は天地創造の初めに安息日についてこう述べている。「神は六日間で御手の業を成し遂げ、七日目にそれを終え、その日に休み、その日を聖別された。」よく考えてください、子どもたちよ。「主は六日間で全てを終わらせた」とはどういう意味でしょうか。主はこう言っているのです。主は六千年で全てを終わらせる、なぜなら主にとっての一日は千年だからです。。そして、主ご自身が私の証人です。「見よ、主の日は千年である。」ですから、子らよ、六日、すなわち六千年で、すべてが完成するのです。「そして、主は七日目に休まれた。」これは、御子が来られるとき、悪しき者の時を滅ぼし、不敬虔な者を裁き、太陽と月と星を変え、そして七日目に真に休まれるという意味です。

息子の誕生時の年齢	年	聖書の一節
アダム	129.5	創世記5章
セス	104.5	創世記5章
エノシュ	89.5	創世記5章
ケナン	69.5	創世記5章
マハラレル	64.5	創世記5章
ジャレッド	161.5	創世記5章
エノク	64.5	創世記5章
メトセラ	186.5	創世記5章
ラメック	181.5	創世記5章
ノア	501.5	創世記5章
シェム	99.5	創世記11章
アルパクサド	34.5	創世記11章
シェラ	29.5	創世記11章
エバー	33.5	創世記11章
ペレグ	29.5	創世記11章
ロイ	31.5	創世記11章
セルグ	29.5	創世記11章

上	28.5	創世記11章
テラ	130	創世記11:26、32、創世記12:4、使徒行伝7:4
アブラハムから始まる出来事	年	聖書の一節
アブラハムはハランを出発し、エジプトとカナンへ向かった。	74.5	創世記 12:4
イスラエルがエジプトを去る	430	出エジプト記 12:40
キングズ・レイン／イベント	年	聖書の一節
ソロモンは神殿の建設を始める	479	列王記上 6:1
ソロモンの王としての残りの年月	36	列王記上 6:1、列王記上 11:42
レハブアムの統治	16.5	列王記上 14:21
アビジャの統治	2.5	列王記上 15:2
それがルールだ。	40.5	列王記上 15:10
ヨシャファトの統治	24.5	列王記上 22:42
ヨラムの統治	7.5	列王記下 8:17
アハズヤの統治	1	列王記下 8:26
アタリアの統治	6	列王記下 11:3
ヨアシュの統治	39.5	列王記下 12:1
アマツヤの統治	28.5	列王記下 14:2
アザリアの統治	51.5	列王記下 15:2
ヨタムの統治	15.5	列王記下 15:33
アハズの統治	15.5	列王記下 16:2
ヒゼキヤの統治	28.5	列王記下 18:2
マナセの統治	54.5	列王記下 21:1
アモンの統治	1.5	列王記下 21:19
ヨシヤの統治	30.5	列王記下 22:1
エホアハズ	0.25	列王記下 23:31
エホヤキム	10.5	列王記下 23:36
エホヤキン	0.25	列王記下 24:8

ゼデキヤ	8.5	列王記下 25:1
紀元前1年までのバビロニア侵攻	585	
西暦1年から2014年まで	2013	
合計:	6000	

聖書に記されている6000年を足し合わせると、ちょうど2013年頃に終わりました。数年の誤差はあるだろうとは思っていましたが、数学的に7年以上の誤差はないだろうと考えていたため、6000年が2020年以降に終わる可能性は全くないと思っていました。2020年になって初めてヨベル書の存在を知り、アダムとイブが人類の墮落前にエデンの園に7年間いたことを知りました。そこで、もし神が創造からではなく、人類の墮落から6000年を数えているとしたら、2020年に近い時期に終わる可能性があることに気づきました。個人的には、この謎は創造からの6000年が2016年に終わり、人類の墮落からの2000年が2023年に終わることを示していると考えています。

2012年に遡ると、主はその時にダニエルの70歳の週(各「日」が1年に相当する7年間)は7日に始まりました。2009年の仮庵祭の日と24日 キスレブの月7日。これらはハガイ書2章で主が天と地を揺り動かし、すべての国の望みを御自身のもとにもたらされるという2つの日付です。仮庵祭の日にオバマ氏はノーベル平和賞の受賞者に選ばれたが、彼はそのような賞に値するようなことは何もしていなかった。そして、24回目のキスレブの日。これらはダニエルの70歳の誕生日の始まりの2つの日付です。1週間後、受賞者に選ばれてからちょうど



1260日後、彼はベツレヘムに行き、本来いるべきではない聖なる場所に立ち、降誕教会で毎日行われている賛美と感謝のいけにえを止めた。ここは、ダニエル書11章31節の預言の成就として、2002年に武装勢力によって冒涇された場所だった。彼の軍隊は立ち上がり、神殿の要塞を冒涇し、日々の生贄の儀式を廃止するだろう。そして彼らは、荒廃をもたらす忌まわしいものを設置するだろう。

降誕教会は神殿の要塞のように建てられ、2002年にパレスチナ人が襲撃した際に冒涇され、その際に毎日の犠牲も行われなくなりました。

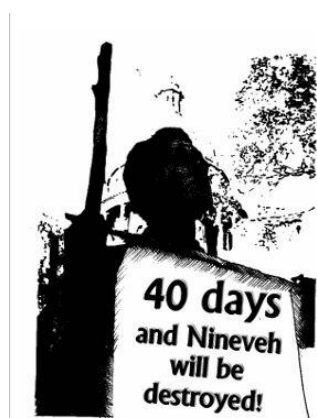
2002年のその出来事の後、2013年3月22日に荒廃をもたらす忌まわしい行為が行われたのを私たちは目撃しました。ここは世界中の多くのキリスト教徒にとって最も神聖な場所、キリストが生まれたまさにその場所と考えられています。ここは世界中のキリスト教徒が主を礼拝し、救い主として地上に来てくださったことに感謝するために訪れる聖なる場所です。



イエスは、この出来事を見たら、すぐに荒廃が訪れるので山に逃げるようにと警告しました。聖書には、1260日、1290日、1335日という日数が記されているのを見ました。2013年3月22日の忌まわしい出来事から1290日を数えてみると、2016年のラッパの祭りにたどり着きました。1260日と1335日がユダヤの祭りを指し示すように、どのように当てはまるのか疑問に思いました。唯一当てはまるのは、2013年5月2日から1260日と1335日を数えると、2016年のクリスマスに贖罪の日とハヌカの始まりにたどり着くという点です。オバマ氏はク



クリスマスに戦争に勝つと言っていました。パズル全体が完璧に理にかなっていて、すべての数字がぴったりと合いました。主は忌まわしい出来事から40日間待っておられ、7日目に大患難時代を始められるだろう。2013年の過越祭の日、神の暦では。ユダヤ暦は、春分より前に聖書の年を始めたため、2013年には神の暦から1か月ずれていました。主は、オバマ氏が10日に借り物の獣に乗ってエルサレムに入城する様子を私たちが見ることができるように、このことを許されました。ニサンの月(ユダヤ暦)に、キリストがなされたように、そしてその翌日、キリストは弟子たちに11日の忌まわしい出来事について語られた。ニサンの月11日。オバマ氏は降誕教会を訪れた。ニサンの日。主は明らかにこの出来事を私たちに示しておられた。オバマ氏がノーベル平和賞受賞者に選ばれてから1260日後のことだった。仮庵の祭りの7日目。ユダヤ人がメシアの到来を待ち望んでいたのは仮庵の祭りの7日目であり、まさにその日にキリストは大声で立ち上がり、人々に自分のもとに来るようにと告げ、彼らに生ける水の泉を与えると約束した。2013年3月22日から2013年4月30日までの40日間は、ニネベに与えられたように、試練の時であった。それは、世界とアメリカに裁きを下す前に悔い改めるための時であった。アメリカはキリスト教国として始まり、すべての国の中で最も偉大な国となり、世界の光、希望、自由の柱となったが、イスラエルが何度もそうしたように、主から背を向けた。主はイスラエルに何度も悔い改めて立ち返るように警告したが、最終的にはイスラエルに裁きを下し、その地を荒廃させた。



ダニエルの70代週 (2009-2016)

ダニエルズ
セブンティーズ
W WEEKが始まる
(平成21年10月9日)

オバマは聖地に立つ
-忌まわしき
(平成25年3月22日)

主の日の延期されました
(2015年のハヌカから2016年のハヌカまで /
2016年のハヌカで終了した 1335日)

ダニエルの70番目の
Wの前半イーク
(1260日)
2009年10月9日～2013
年3月22日

40日間の試用期間/最
初の遅延が始まります
(2013年5月2日)

ダニエルの70番目のW
の後半イーク (1260日)
2013年5月2日～2016年10月12日
(贖罪の日)

2016
年のハヌカまで 75
日間待機
(1335日の終わり)



2013年5月2日に遡ると...聖書は、この時がアメリカと世界に対する裁きの時であり、その後3年半の大患難時代が続くことを明確に示しています。キリストの花嫁は、蛇の手の届かない、神によって用意された場所に連れて行かれるはずでした。しかし、何も起こりませんでした。何が起こったのか、そして主がアメリカと世界に対する裁きをどのように保留されたのかを理解するまでに5ヶ月かかりました。主は、2013年4月30日から5月2日まで、主がアメリカに憐れみをかけてくださるよう世界中で祈りの運動があったことを私に明らかにされました。2013年4月30日はアメリカの国民悔い改めの日であり、2013年5月2日はアメリカの国民祈禱の日でした。2013年4月25日、オーストラリアの国民祈禱と断食の日のチームから、アメリカのために祈りと断食をするよう世界に向けて呼びかけがありました。オーストラリアチームは、4月30日の米国国民悔い改めの日を繋ぐ

ために神の導きを感じた。そして5月2日はアメリカの国民祈祷日である。世界中で米国のために72時間の祈りと断食を行うよう呼びかけられました。これは、2013年4月24日の電話会議で、アメリカの祈りの指導者たちによって謙虚かつ感謝をもって受け入れられました。これはすべて、ヨナの物語を通して聖書の中で私たちに予示されていました。ニネベに対する裁きは、40日間の猶予期間の後に行われた悔い改めによって延期されました。また、3日間の祈りと断食の後、王に近づき民への慈悲を乞うエステル女王の物語でも予示されていました。慈悲は与えられました。その時、私は主がマタイ24:22で私たちに告げられたように、大患難の日々を短くしているのだと単純に考えていました。2013年から2015年にかけて種なしパンの祭りの開始時に起こった皆既月食と、2015年の聖書とユダヤ教の新年の開始時に起こった日食は、このタイムラインに完全に合致しており、2016年が主の日、ダニエル書の70日目の7日目となることを示しています。今週。聖書はヨエル書2章と使徒行伝2章で、主の偉大で恐ろしい(あるいは栄光に満ちた)日が始まる前に、太陽が暗くなり、月が血のように赤くなると述べている。



私は2015年の贖罪の日を、最初の携挙が起こる日として指摘しました。2016年のハヌカの始まりに2度目の携挙があり、2017年1月1日に新千年紀を迎えるためにハヌカの7日目にキリストが地上に再臨すると信じていました。黙示録14章は2つの収穫の出来事について述べており、黙示録は3つの災いの出来事について述べています。私は、この2つの収穫の出来事は携挙の出来事であり、黙示録の最初の2つの災いの出来事と関連しており、3番目の災いの出来事はキリストの地上への再臨であると信じています。

Rev. 14 – Two Final Harvests

Harvest #2 – Harvest of grapes

Revelation 14:17
Then another angel came out of the temple in heaven, and he too had a sharp sickle.

Rev. 14 – Two Final Harvests

Revelation 14:15-16
And another angel came out of the temple, calling with a loud voice to him who sat on the cloud, "Put in your sickle, and reap, for the hour to reap has come, for the harvest of the earth is **fully ripe**." So he who sat on the cloud swung his sickle across the earth, and the earth was reaped.

しかし、2015年や2016年には、2回の携挙とキリストの再臨は起こりませんでした。それから10年が経ちました。この10年間、私は神のタイムラインの中で私たちが今どこにいるのかを解明しようとしてきました。

私は、2016年が天地創造から6000年が経過した年だと信じるようになりました。ヨベル書には、アダムとイブが墮落する前に7年間エデンの園にいたと記されています。もし主が天地創造からではなく、人類の墮落から6000年を数えているとすれば、そして天地創造から6000年が2016年に経過したとすれば、2023年が人類の墮落から6000年が経過した年ということになります。

さて、パズルに戻しましょう。2009年から2016年がダニエルの70歳の誕生日であるはずがありません。もし私たちが2026年になってもまだここにいて、携挙やキリストの再臨がまだ起こっていないとしたら、それは一体何週間後のことでしょうか？

聖書には、14年間という非常に重要な期間が2つ記されています。1つ目は、ヨセフの時代に7年間の豊作の期間があり、その後7年間の飢饉の期間があったことです。この物語は創世記41章から47章に記されています。

もう一つの重要な14年間は、ヤコブの物語に見られます。ヤコブはラケルと結婚するために7年間働きましたが、ラバンに騙されて彼女の妹レアと結婚してしまいました。その後、真の愛であるラケルと結婚するために、さらに7年間働かなければなりません。聖書は創世記29章20節で次のように述べています。こうしてヤコブはラケルを手に入れるために7年間仕えたが、彼女への愛ゆえに、彼にとってはほんの数日のように思えた。つまり、ヤコブは最初に聞かされていた7年ではなく、愛するラケルと結婚するために合計14年間働かなければならなかったのだ。

聖書のこれら二つの物語は、主がダニエルの七十年の七年間を倍にすることを私たちに予示していたのだろうか。1週間で、14年間に延長するのでしょうか？2009年の秋が70年目の始まりだったことは分かっています。ダニエル書第9章に記されているダニエルの70週目、またはこの7年間。主がダニエルの70週目を倍にしているなら1週間後、14年間は2023年の仮庵祭とハヌカの時期に終わるはずだった。

ダニエル書 9:27 –「そして彼は多くの者と契約を結び、一つの七つの年を確かなものとする。」ヘブライ語で「1」を表す言葉は「eḥād」で、「最初の」という意味にもなります。「そして彼は最初の七人のために多くの者と契約を結ぶであろう。」これはこの聖句の解釈の一つです。「第一」という言葉が出てくる場合、必ず「第二」も存在することを意味します。したがって、この聖句の正しい解釈が「第一」ではなく「一つ」という言葉を使うことであるならば、ダニエルの70週目に第二週が追加されているはず。週。旧約聖書では、この単語「eḥād」は「1つ」ではなく「最初の」と訳される箇所が36回あります。

列王記上 8:65こうしてソロモンは、その祭りを祝い、イスラエル全国民も彼と共に、レボ・ハマテからエジプトの谷に至るまでの大勢の民が集まった。彼らは、七日間とさらに七日間、私たちの神、主の前でそれを祝った。合計14日間。

歴代誌下 30:23- その後、議会全体が同意した彼らはさらに七日間祭りを祝い、さらに七日間喜び祝った。。

聖書には、イスラエル人が7日間の祭りを14日間祝った例が2回記されています。1回目は列王記上8章で、仮庵の祭りが2週間祝われた時です。2回目は歴代誌下30章で、過越祭が1週間ではなく丸2週間祝われた時です。どちらの場合も、祝祭があまりにも盛大だったため、人々は祝祭を終えて家に帰ることを望まず、さらに1週間祝祭を続けるよう強く求めたのです。

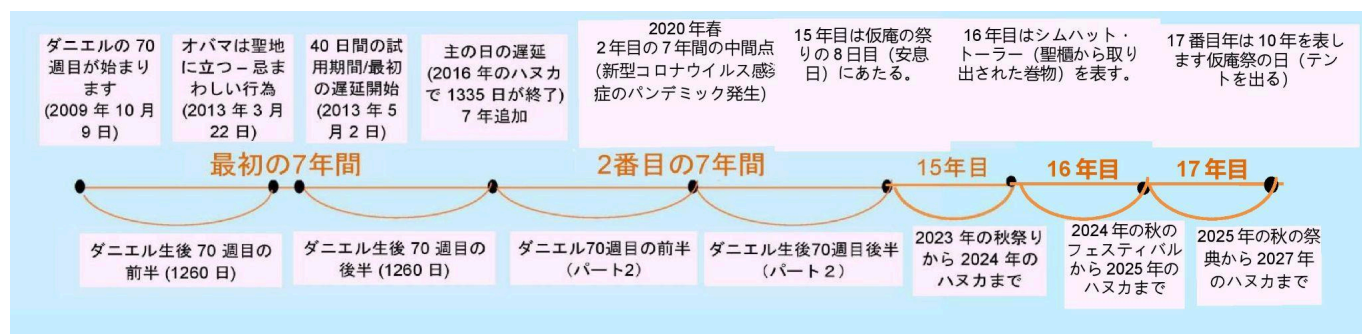
主は旧約聖書において、再臨の際の地上への帰還に先立つ終末の期間の予型となるようなパターンを私たちに示されました。私は、主がダニエルの70週目を種なしパンの祭りや仮庵の祭りに倣って定めていると信じています。ダニエルの70週目では、1日が1年に相当します。したがって、7日目は7年目となります。しかし、もし主がそれを倍にして14日間、つまり14年間としているのなら、それは14年間続くことになります。

ダニエルの70週目が2009年の仮庵の祭りとハヌカの期間中に始まったとすれば、14年目は2023年の仮庵の祭りとハヌカの期間中に終わることになる。14年目は種なしパンの祭りの7日目、つまり安息日を表す。しかし、種なしパンの祭りとは異なり、仮庵の祭りには8日目が追加されており、ユダヤ人は（種なしパンの祭りのように）1日目と7日目に休むように言われるのではなく、1日目と8日目に休むよう

に言われている。

2023年の秋から2024年のハヌカまでは、8日目を表していました。主はダニエルの70週を14年に倍増し、15年目は仮庵の祭りの8日目を表していました。それは安息日でした。

7年が倍になったため、2009年の秋から数えると、9年目は16年目にずれ込むことになります。主は、7日目と8日目は安息日であり、9日目と10日目は主の再臨に関する預言が成就する時であることを私たちに示しておられるようです。仮庵祭の9日目は「シムハット・トーラー」と呼ばれます。この日、聖櫃から巻物を取り出され、ユダヤの人々は夜遅くまで踊り、喜びを分かち合います。正統派ユダヤ教だけでなく、多くの保守派ユダヤ教においても、トーラーの巻物が聖櫃から取り出され、夜に朗読されるのは、この日だけです。



仮庵の祭りの期間中、ユダヤ人は家を出て仮庵で生活します。仮庵の祭りの始まりから10日目に、ユダヤ人は仮庵を出て元の住居に戻ります。これは、キリストの花嫁が地上の肉体という「仮庵」を離れ、キリストのもとへ行き、そこで死ぬことのない永遠の体を受けることを予示しています。

マカバイ記には、敬虔なユダヤ人が紀元前168年から165年の3年間、山中に避難していたことが記されています。彼らは、反キリストの予型である邪悪なアンティオコス4世の軍隊をキスレブ月の25日に破り、すぐにエルサレムに戻って神殿を清めました。紀元前168年にゼウス像が神殿に建てられたことで神殿が汚され、彼らはその3年間、仮庵祭を適切な時期に祝うことができませんでした。そこで彼らは、その時期に仮庵祭を祝い、それを「再奉献」を意味するハヌカと呼ぶことにしました。こうして神殿は清められ、主への再奉献が行われたのです。これはすべて、主が驚くべき終末の計画に加える3年間の前兆であり、その終わりに主の花嫁である聖なる神殿は清められ、浄化され、天でハヌカの結婚の祝宴を祝う準備が整えられるのである。

この3年間はダニエル書1章にも記されており、3年間の訓練期間だけでなく、10日間の試練期間(パズルでは10年を表す)についても言及されています。ダニエル書1章では、身を汚さない者について述べられており、これは黙示録14章を指し示しています。黙示録14章では、初穂の携挙で選ばれる者のうち、身を汚さない者について記されています。黙示録2章では、10日間の苦難の期間について述べられており、その終わりに、キリストに忠実であり続ける者は命の冠を受けることになります。ダニエル書1章と黙示録2章で言及されているこの10日間は、2016年から2026年までの10年間の待ち時間を指し示しており、ダニエル書9章の預言では、1日が1年に等しいとされています。

私は、2026年は種なしパンの祭りの始まりから数えて10日目、つまり聖書の第一月の24日目の預言の成就だと信じています。ダニエル書10章を見ると、第一月の24日目に主がダニエルに現れ、その声

は群衆の声のようであったことが分かります。これは、黙示録19章6-8節の小羊の婚礼の始まりに見られるのと同じ表現です。第一月の24日目に、主はダニエルに、ペルシャ(現代のイラン)との戦争、死者の復活、そして神の民の救い(携挙)に関する多くの驚くべき預言を語られました。

私は、2026年は仮庵祭の開始日から数えて10日目、つまり第七の月の24日目の預言の成就でもあると信じています。ネヘミヤ記9章には、第七の月の24日目にユダヤ人が粗布をまとったことが記されています。これは、初穂の携挙の後、粗布(悔い改めのしるし)をまとい、神に立ち返る二人の証人(残された聖徒)の予型です。



つまり、このパズルは2009年の仮庵祭の7日目、ハヌカの前夜から2027年1月1日のハヌカの前夜まで、17年間続きます。17は聖書において興味深い数字です。17という数字は、10と7という数字の重要性と関連しています。言い換えれば、17という数字は完全な(10)聖化を表しています。17という数字の意味は、「敵に打ち勝つこと」と「完全な勝利」です。

創世記 7:11 -**17日目** 2ヶ月目ノアが600歳になったとき、地底の泉が地面を突き破り、水が至る所から流れ出した。

マタイによる福音書 24:37 -しかし、ノアの時代がそうであったように、人の子の到来もまたそのようになるだろう。

ヨベル書 3:17 -そして、彼がそこで過ごした7年間、正確に7年間が経過した後、そして2ヶ月目には、**17日目**すると蛇がやって来て女に近づき、**蛇女**に言った。「神はあなた方に、『園のどの木の実も食べてはならない』と命じたのか。」

ヨハネの黙示録 12:15 -だから**蛇** 口から水を吐き出した**洪水** 彼はその女の後を追ひ、彼女を洪水に流させようとした。

創世記 8:4 -「7月には、**17日目** その月の終わりに、ノアの箱舟はアララト山に漂着した。」

これらの聖句はすべてパズルのピースのように組み合わせさせて、17日目が重要な日付であることを示唆しています。創世記7章11節では、**洪水** 第二の月の17日目に始まった。ヨベル書第3章を見ると、人間の堕落も第二の月の17日目に起こったことがわかる。**蛇女**の後を追ってきた。黙示録12章を見ると、**蛇**は女を追いかけますが、女は「一時、二時、半時」の間、神によって用意された蛇の手の届かない場所に連れて行かれます。また、黙示録12章では、蛇が洪水のように水を吐き出す様子が描かれており、**洪水**ノアの時代は第二の月の17日目に始まりました。イエスは、ノアの時代と同じように人の子の到来の時にもそうなるだろうと言い、洪水と、イエスが再臨する前の地上の最後の裁きとの明確な

関連性を示しました。17日目は、地上の権威がサタンに返される日であり、また、神による地上の裁きが始まる日として神によって定められています。創世記8章を見ると、**箱舟は休んだ**17日目に、17日目に初穂の携挙で連れて行かれる人々のための主の残りの期間の予兆となる。そしておそらく最も重要なことは、**復活**キリストの死は第一の月の17日に起こり、**死者の復活**ダニエルの70週目の始まりから数えて17日目に起こる出来事です！

イザヤ書 34:8 -主は**復讐の日、報復の年**シオンの大義を擁護するために。

2026年1月13日、トランプ大統領は自身のソーシャルメディアプラットフォームに次のように投稿した。「ミネソタの偉大な人々よ、恐れるな。**審判と報復の日がやってくる**！

聖書が指し示す報復の日(年)は2026年だと私は信じています。ダニエル書の70週では、1日が1年に相当します。これはイザヤ書34章にも見られ、復讐の日が報復の年とも呼ばれています。興味深いことに、ダニエル書の70週が2009年の仮庵祭の7日目に始まったように、オバマ氏がノーベル平和賞受賞者に選ばれたのもこの日です。同様に、2025年10月13日(バビロン陥落記念日)の仮庵祭の7日目に、トランプ氏はエジプトで停戦と人質解放に続くガザ戦争終結を目指す和平協定に署名しました。オバマ氏とトランプ氏はともに仮庵祭の7日目に平和構築者として宣言されました。彼らは二人ともイスラエル、アメリカ、そして全世界の平和構築者、救世主になりたいと願っているのです。イスラエル、アメリカ、そして世界にとって、真の救い主であり平和の担い手はキリストただ一人である。

ヨハネの黙示録には、三つの災いの出来事が記されています。これら三つの災いの出来事にはそれぞれ定められた時があり、二つの携挙(または収穫)とキリストの再臨が含まれます。私は、主は聖書に記されている限り可能な限り長く延期し、残された聖徒たちのために日数を短くされると信じています。主は、ご自身の子どもたちを長い間苦しませたくはないでしょう。初穂の携挙は、残された聖徒たちへの目覚めの呼びかけであり、悔い改めて、地上に残されたわずかな時間を使って、できるだけ多くの魂を御国に導く必要があることを知らせるためのものです。それは、神の子どもたちにとって拷問や長い苦しみの時となることを意図したものではありません。主は、ご自身の選民のために日数を短くすると仰せられました。私は、主がどれくらい日数を短くする計画なのかを聖書から探ろうとしています。

マタイによる福音書 24:22 -もしその日数が短くされなかったなら、だれも救われないであろう。しかし、選ばれた者たちのために、その日数は短くされるであろう。

これまでのところ、2025年10月13日の仮庵祭の7日目(バビロン陥落記念日)から、2027年1月1日/2日のハヌカ前夜(キスレブ月の24日目)の開始までが、パズルの17年目であり、最後の「主の日」であることが分かっています。次に、3つの災いの出来事の具体的な日付を見ていきたいと思います。

ヨハネの黙示録 8:12 -それから第四の天使がラッパを吹いた。すると太陽の三分の一、月の三分の一、星の三分の一が打たれ、それらの三分の一が暗くなった。昼の三分の一は光を失い、夜も同様であった。

聖書には、昼と夜の3分の1が暗闇に包まれると記されています。この預言は、地上に訪れる3分の1の裁きを指し示しているのではないかと私は考えています。



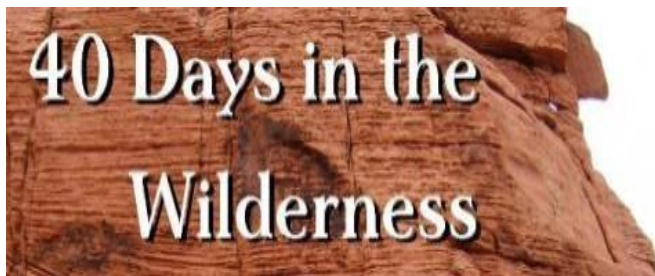
ヨハネによる福音書 9:4 -昼の間は、私を遣わされた方の御業を行わなければならない。夜が来る。その時、誰も働くことができない。

アモス書 5:20 -主の日とは、光ではなく闇の日ではないだろうか。漆黒の闇で、一筋の光もない日ではないだろうか。

聖書は「主の日」を地上の「夜」の時と表現しています。「主の日」が2025年10月13日（仮庵の祭りの7日目）から2027年1月16日（キリストが地上に再臨する前の最終日）までだとすると、合計460日間になります。このうち最後の3分の1（153日間）は、初穂の携挙が行われる2026年8月15日/16日から始まります。したがって、「主の日」の3分の1は、2026年8月15日/16日の最初の収穫でキリストの花嫁が取り去られるため、暗くなります。

私は、大患難時代は2026年8月15日/16日（新ぶどう酒の初穂祭）から2027年1月1日/2日（ハヌカ前夜）までの140日間続くと信じています。私は、最初の災いは2026年8月15日/16日の初穂の携挙と大患難時代の始まりと一致すると信じています。私は、2番目の災いは主要な収穫の携挙と一致し、2027年1月1日/2日に起こると信じています。私は、3番目の災いは2027年1月17日のキリストの再臨と一致すると信じています。私は、大患難時代は3年半からわずか5ヶ月に短縮され、神の怒りは75日からわずか2週間に短縮されたと信じています。

黙示録12章女性は逃げた**荒野へ** 神が彼女のために用意した場所へ、彼女は1260日間養われるために...しかし、地と海は災いだ。悪魔があなたたちのところに下ってきたからだ。彼は自分の時間が短いことを知っているの、怒りに満ちている...女には大きな鷲の二つの翼が与えられ、彼女のために用意された場所へ飛んで行くことができた。**荒野で**彼女はそこで世話をされるだろう**蛇の手の届かないところ**に、時、時、半時。



聖書によれば、黙示録12章の女は、神が荒野に用意した場所に「一時、二時、半時」の間連れて行かれるとされています。これは本来1260日間の期間で、2016年の贖罪の日に終わるはずでしたが、延期され短縮されました。黙示録12章を読み進めると、悪魔は自分の時間が短くなったことに激怒していることがわかります。悪魔は3年半かけて世界を混乱に陥れることができると考えて

いましたが、主は預言的な1年である360日から、わずか40日に「時」を変更されたのです。

聖書の中で、主はしばしば時間の単位を入れ替えて用いられています。例えば、ダニエルの70週は7日ではなく7年です。1日は1時間に相当することもあります。同様に、1日は1000年に相当することもあります。では、主がどのような「時間」の単位を用いられるのか、どうすれば分かるのでしょうか？私は、主が「荒野」という言葉を用いることで、これらの聖句の中にその答えを隠しておられるのだと信じています。

聖書における40という数字は、試練、試練期間、または試練の期間を象徴しています。聖書で誰かが荒野に行くという記述があるときはいつでも、40という数字が関連付けられています。イエスは荒野で40日間誘惑を受けました。エリヤは神の山にたどり着く前に荒野を40日間歩きました。モーセは主と共に山（荒野の一種）で40日間過ごしました。モーセはエジプトに戻る前に荒野で40年間過ごしました。その後、約束の地に入る前にイスラエル人と共に荒野でさらに40年間過ごしました。ダニエル書から、1

日が1年に相当することがわかっているので、これは40日間の期間を表している可能性があります。40×3.5(一時、一時、半一時)を数えると、合計140日になります。聖書における40という数字は、試練、試練期間、または試練の期間を象徴しています。

ヨハネの黙示録 12:5-6 - 彼女は与えた男の子の誕生男児は「鉄の笏で全ての国々を治める」だろう...
。神が彼女のために用意した場所へ荒野へと逃げ込んだ...

レビ記 12:2-4 -イスラエル人にこう言いなさい。「妊娠した女と息子を出産する彼女は、月経期間中と同様に、7日間は儀式的に不浄な状態となる。8日目その少年は割礼を受ける予定だ。そして女性は清められるまで33日間待たなければならない。彼女は出血していた。彼女は、浄化の期間が終わるまで、神聖なものに触れたり、聖域に行ったりしてはならない。

レビ記12章には、女性が男の子を産んだ場合、清められるまで40日間待たなければならないと記されています。これが彼女の清めの「期間」です。女性、すなわちキリストの花嫁は、神によって用意された場所に連れて行かれます。イエスは、ご自身がおられる所に私たちもいることができるように、私たちのために場所を用意するとおっしゃいました。キリストの花嫁は、140日間の清めの期間(40×3.5)を耐え忍ばなければなりません。この清めの期間は、2026年8月15日/16日から2027年1月1日/2日までです。

ヨハネの黙示録 9:1-5 -第五の天使がラツパを吹くと、私は天から地に落ちた星を見た。その星は深淵の穴の鍵を与えられた。彼が深淵を開くと、巨大な炉から出る煙のような煙がそこから立ち昇った。深淵からの煙によって太陽と空は暗くなった。そして、その煙の中からイナゴが地上に降りてきて、地上のサソリのような力を与えられた。彼らは地上の草や植物、木々を傷つけてはならないと命じられたが、額に神の印のない人々だけを傷つけるように命じられた。彼らは彼らを殺すことは許されず、ただ拷問して苦しめるように命じられた。5ヶ月。

From and including: Sunday, August 16, 2026
To, but not including Saturday, January 16, 2027

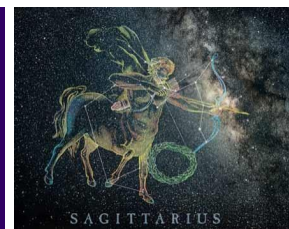
Result: 153 days

It is 153 days from the start date to the end date, but not including the end date.

Or 5 months excluding the end date.

聖書創世記7章には、大洪水の際に水が地上を覆っていた期間に関連して、150日間(預言的な5ヶ月)という期間が記されています。私は、今回の洪水は2026年8月16日から2027年1月16日までの153日間(太陽暦で5ヶ月)になると考えています。

イエスはマタイによる福音書24章22節で、地上の暗黒の日々が短縮されると告げられました。黙示録は、この地上の暗黒の期間が3年半からわずか5ヶ月に短縮されたことを示していると私は信じています。これらの5ヶ月とは、神の暦におけるアブ月、エルル月、ティシュレイ月、ヘスバン月、キスレブ月です。



ルカによる福音書 21:25 -"あるだろう 太陽、月、星の兆候地上では、諸国は海の轟音と荒れ狂う波に苦しみ、困惑するだろう。"

創世記 1:14 -そして神は言った、"させてそこにはライトハイツで広がり空のdへ消火する間dは1そして夜 そして印をつけるt季節そして日そして年。"

聖書は、太陽、月、星に兆候が現れると教えています。毎月、太陽は星の中で異なる星座に入ります。占星術師はこれらの星の古代の図表を用いて占星術の兆候を決定します。しかし、地球の位置は過去数千年の間に变化しており、占星術の図表は今日私たちが天体で見ると約1ヶ月ずれています。2026/2027年には、太陽は以下の日付にこれらの星座に入ります。

8月16日 - 獅子座

9月17日 - 乙女座

10月18日 - 天秤座

11月17日 - さそり座

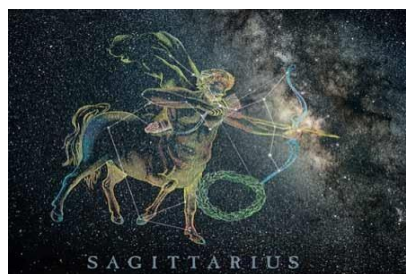
12月17日 - 射手座

1月16日 - 山羊座

ARIES APRIL 19 - MAY 13	LIBRA OCTOBER 18 - NOVEMBER 16
TAURUS MAY 16 - JUNE 13	SCORPIO NOVEMBER 17 - DECEMBER 16
GEMINI JUNE 16 - JULY 16	SAGITTARIUS DECEMBER 17 - JANUARY 13
CANCER JULY 17 - AUGUST 16	CAPRICORN JANUARY 16 - FEBRUARY 14
LEO AUGUST 16 - SEPTEMBER 16	AQUARIUS FEBRUARY 15 - MARCH 13
VIRGO SEPTEMBER 17 - OCTOBER 17	PISCES MARCH 16 - APRIL 14

黙示録9章イナゴはまるで戦いの準備を整えた馬のようだった。頭には金の冠のようなものをかぶり、顔は人間の顔に似ていた。彼らの髪は女の髪のように、歯は獅子の歯のようだった。彼らは鉄の胸当てのような胸当てを着けており、その翼の音は、多くの馬と戦車が戦場に突進する轟音のようであった。彼らは毒針のある尾を持っていた。サソリのように彼らの尻尾には、5ヶ月間人々を苦しめる彼らの王は深淵の天使であり、その名はヘブライ語でアバドン、ギリシャ語でアポリオン(すなわち破壊者)である。最初の災いは過ぎ去ったが、あと二つの災いがこれから起こる。

大患難時代が始まるときに太陽が獅子座にある最初の兆候は、ライオンの歯黙示録9章8節。おとめ座は私たちに女性の髪黙示録9章8節。天秤座は黙示録9章3-4節を思い出させます。そこではイナゴが与えられています。権力と権威額に神の印のない者すべてを拷問し、正義の天秤が傾き、今やサタンが地上で再び自分の好きなようにする権威を持っていることを示している。さそり座は黙示録9章5節と10節を思い出させる。そこではこれらの邪悪な生き物がサソリと比較して。

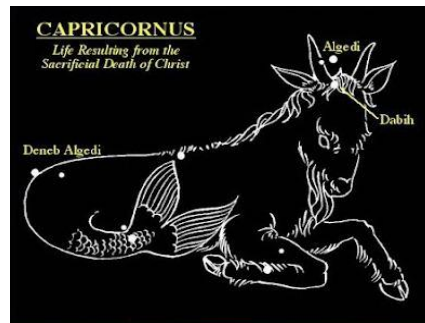


2026年12月16日、太陽はいて座に入ります。いて座はヘブライ語で射手を意味します。射手の矢はさそり座を指し、その戦いは蛇との戦いです。ギリシャの詩人アラトスは彼についてこう書いています。「黄金の星々の真ん中に彼は今や輝き、弓を引いてさそり座を射抜く。」しかし、馬に乗って復讐する者の真実の物語は、ヨハネの黙示録19章11-16節に記されています。

「わたしは天が開いているのを見た。見よ、白い馬がいた。それに乗っている方は、忠実で真実な方と呼ばれている。彼は正義をもって裁き、戦いをされる。その目は燃える火のようで、頭には多くの冠をかぶっている。彼には、ご自分以外には誰も知らない名が記されている。彼は血に染まった衣をまとっており、その名は神の言葉である。天の軍勢は、白い馬に乗り、白く清い麻布をまとって、彼に従っていた。彼の口からは鋭い剣が出ており、それで諸国を打ち倒す。彼は鉄の杖で彼らを治める。彼は全能の神の激しい怒りのぶどう搾り場を踏む。彼の衣と腿には、「王の王、主の主」という名が記されている。」

黙示録はさらに、白い馬に乗った者が獣、すなわち偽預言者、敵を打ち負かし、悪魔、すなわち古の蛇を深淵に投げ込むと説明しています。これは、射手座の星々が指し示す物語、すなわちイエス・キリストが敵に最終的に勝利する物語です。太陽がこの星座にあるとき、キスレブ月の24日目(2027年1月1日/2日)に、第二の災いと大収穫の携挙が起こります。

2027年1月16日、太陽がやぎ座に入るのが見られます。キリストが地上に戻ってくる時、太陽はこの星座にあります。聖書の天文学では、やぎ座は犠牲としてのキリストを表しています。ヘブライ語とアラビア語で、この星座の名前は「断ち切られる」または「贖罪」を意味します。この星座の星の1つであるデネブは、ヘブライ語で「主、裁き主が来る」という意味です。やぎ座のもう1つの星であるダラフは、ヘブライ語で「水を注ぐ」、アラビア語で「すぐに来る」という意味です。主要な星座の中にある小さな星座であるデカンの1つであるシャムは、ヘブライ語で「破壊する」または「荒廃させる」という意味です。やぎ座にあるもう1つのデカンにはタラレドで、ヘブライ語で「傷ついた彼は降りてくる」という意味です。もう1つのデカンは射手座で、矢、つまり罪に対する神の裁きを表しています。もう一つのデカンはデルフィヌスで、水面から飛び出すイルカ、つまり死からの復活を表しています。



ゼカリヤ書 12:10 -彼らは、自分たちが突き刺したわたしを見上げ、一人息子を失ったかのように嘆き悲しみ、長男を失ったかのように激しく悲しむであろう。

ヨハネの黙示録 1:7 -「見よ、彼は雲に乗って来られる。すべての目が彼を見るであろう。彼を刺し貫いた者たちも見るであろう。そして、地上のすべての民は彼のために嘆き悲しむであろう。まことにそのとおりになる。アーメン。」



新ぶどう酒の初穂祭は、死海文書の神殿巻物に記されています。これらの巻物はエッセネ派によって書かれたと考えられています。私たちは、過越祭から7週間オメルを数え、50日目にペンテコステ祭を祝うことを知っています。しかし、死海文書の中にある神殿巻物によると、ペンテコステ祭の後には他に2つの50日間の祭りがあり、1つ目はぶどうの収穫による新ぶどう酒、そして50日後にはオリーブの収穫による新油の祭りでした。これらの祭りは1000年以上も祝われていた可能性があります。

神殿の巻物にはこう記されている。「揺り動かす捧げ物の束を携えて来た日から、七つの安息日を数えなさい。七番目の安息日の翌日まで数えなさい。五十日間数えなさい。新しい穀物の捧げ物を携えて来なさい。これは七週の祭り、初穂の祭りであり、永遠の記念である。新しい穀物の捧げ物を携えて来た日から七週間を数えなさい。七つの安息日が満ち、五十日が経ち、七番目の安息日の翌日まで数えなさい。新しいぶどう酒を注ぎの捧げ物として携えて来なさい。」

新ぶどう酒祭はペンテコステから50日後に行われた。新しいぶどう酒が(神殿で)供えられるまでは、誰も新しいぶどう酒を飲むことはできなかった。(神殿の巻物)

マタイによる福音書26章29節で、イエスは最後の晩餐で弟子たちにこう語っています。「今から後、父の国であなたがたと共に新しいぶどう酒を飲む時まで、私はぶどう酒を一切飲まない。」別の翻訳:「わ

たしはあなたがたに言います。父の国でああなたがたと共に新しいぶどう酒を飲む日まで、わたしは二度とこのぶどう酒を飲むことはありません。」これは、初穂の携挙、つまり私たちが主と共に新しいぶどう酒を飲む日の時期を示す「手がかり」なのでしょうか？

新ぶどう酒の初穂祭の正確な日付を決定するためには、2026年のペンテコステの日付を考慮する必要があります。イスラエル人は、聖書の第一の月であるニサン(アビブ)の15日から種なしパンの祭りを祝うように命じられました。この1週間の祭りの間、安息日の翌日に初穂の捧げ物を主に捧げることになっていました。

種なしパンの祭りには3つの安息日が含まれています。祭りの1日目と7日目は安息日とみなされ、土曜日は常にイスラエル人にとって安息日でした。したがって、大麦の初穂の捧げ物を考える際には、これら3つの安息日のいずれも考慮に入れることができます。エッセネ派は、種なしパンの祭りが終わった後の土曜日の安息日がそれであると信じており、これは考慮すべき4つ目の選択肢となります。

ユダヤ暦は1か月ずれているため、2026年のニサンの本当の初日は2026年4月19日(日曜日)であるはずですが、したがって、2026年5月3日から9日が、神の暦における7日間の種なしパンの祭りの正しい日付となります。7日目(2026年5月9日(土曜日))は安息日であり、土曜日の安息日でもあります。したがって、2026年5月10日(日曜日)が初穂の祭り(大麦の祭り)となり、初穂の祭りがいつになるかを考える際に使用できる4つの選択肢のうち3つが使われています。このパズルの前半では、2013年の種なしパンの安息日の7日目を使用して、2016年に終了した1260日と1335日の数え始めも使用しました。

2026年5月10日を初穂祭(大麦の初穂)として7週間数えると、2026年6月28日(日曜日)のペンテコステ祭(小麦の初穂)になります。さらに7週間数えると、2026年8月16日の新ぶどう酒の初穂祭になります。

From and including: Sunday, August 16, 2026
To and including: Saturday, January 2, 2027

Result: 140 days

It is 140 days from the start date to the end date, end date included.

Or 4 months, 18 days including the end date.

この日付に140日加えると、2027年1月2日、つまりキスレブ月の24日目、ハヌカ前夜になります。ユダヤの人々は日没から一日を始めるため、新ぶどう酒の初穂祭は実際には2026年8月15日の日没から始まり、ハヌカ前夜は2027年1月1日の日没から始まることとなります。

マタイによる福音書 3:11-12 -「彼は**聖霊と火であなを洗礼します**彼は手に箕を持っており、脱穀場を片付けるだろう。**彼は麦を納屋に集め、もみ殻を消えない火で焼き尽くした。**。

ヨハネはここで預言しており、教会時代の始まりと終わりについて説明しています。すべてはペンテコステの日に始まりました。**聖霊と火で洗礼を受けた**すべては新ワイン初収穫祭で幕を閉じます。**小麦の収穫終了**そしてぶどうの収穫が始まったとき、**彼は麦を納屋に集め、もみ殻を燃やす**。これは小麦の収穫期の終わり、つまり収穫の時期です。祭りは収穫期の始まりと終わりを告げるものです。

大麦の初穂 — (イエスが成就した)

小麦の初穂 - 大麦の収穫期の終わり／小麦の初穂(ペンテコステに成就)

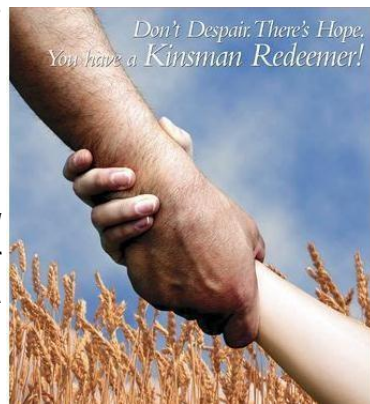
新しいぶどう酒の初穂 — 小麦の収穫期の終わり／ぶどうの初穂(最初の携挙の時に成就する)

仮庵の祭り - ぶどうの収穫期の終わり(ハヌカの期間中に成就する)

ハヌカは第二の仮庵祭です。イエスが地上に戻られた後、キリストの花嫁はもはや汚されることがなくなるため、新千年紀を通して適切な時期に仮庵祭が祝われるでしょう(ゼカリヤ書14章16-19節参照)。

マタイによる福音書 13:30 -収穫まで両方とも一緒に育てなさい。その時になったら、私は**収穫機**まず雑草を集めて束ねて燃やします。**小麦を集めて私の納屋に運び入れてください。**

イエスはマタイによる福音書13章のたとえ話の中で、携挙の時に収穫されるのはクリスチャンだけでなく、不信者も含まれることを示しています。収穫者(天使)は不信者と信者の両方を集めます。麦(信者)は神の倉に運び込まれ、雑草(不信者)は集められて焼かれるのです。



ボアズとルツの結婚式は、花嫁の携挙/結婚式のもう一つの例です。ボアズは親族の贖い主としてのイエスを表し、ルツは教会を表しています。ルツ記 2:14、「食事の時間になると、ボアズは彼女に言った。『さあ、ここに来て食べなさい。**パン** そして一口分を浸して**ワイン**。』」ここでは、ボアズ(イエスを象徴)がルツ(教会を象徴)にパンとぶどう酒を与えています。では、彼らの結婚式はいつ行われたのでしょうか？ルツ記2章23節、「そこで彼女はボアズの娘たちと共に落ち穂拾いをし、**大麦の収穫と小麦の収穫の終わり**そして義母と同居した。ルツは小麦の収穫が終わるまで姑と一緒に暮らし、その後姑を離れて新しい夫ボアズのもとへ行った。

士師記20章と21章では、ベニヤミン族が全滅した様子が描かれていますが、600人の男性は生き残り、山に隠れることを許されました。**4ヶ月**4か月が終わると、彼らは花嫁を奪うことが許され、七十人訳聖書で「奪う」という言葉はハルパゾー(引き上げられる、携挙)です。七十人訳聖書の「ハルパゾー」という言葉は「奪う」という意味で、テサロニケ人への手紙第4章で「引き上げられる」という意味で使われている言葉と同じです。そして、生き残っている私たちも、彼らと共に雲の中に引き上げられ、空中で主にお会いするのです。こうして私たちはいつまでも主と共にいるのです。」

イエスはヨハネによる福音書4章35節でこう言った。「**あと4ヶ月**そして収穫は？私があなたに言いたいのは、目を開けて畑を見なさい、ということです！**それらはすでに収穫の時期を迎えている！**

ヨハネの黙示録 14:15すると、別の天使が神殿から出てきて、雲の上に座っている方に大声で叫んだ。「鎌を取って刈り取りなさい。刈り取る時が来たからです。**大地の収穫は熟した**」

ヨハネによる福音書4章では、イエスが収穫の時期と4ヶ月の待ち時間を結びつけているのが分かります。黙示録14章では、最初の収穫の時に地の収穫が熟していることが示されています。

いつから4か月後なのか？おそらくイエスは、神の暦における聖書の年の始まり(2026年4月18日/19日)を指し示し、それから2026年8月15日/16日の最初の収穫/携挙の出来事までの4か月間を指さしていたのだろう。

マタイによる福音書24章:「**その苦難の日々が終わるとすぐに、「太陽は暗くなり、月は光を放たず、星は空から落ち、天体は揺り動かされるだろう。」**その時、人の子のしるしが天に現れる。そして、地上のすべての民は人の子を見て嘆き悲しむであろう。**天の雲に乗ってやってくる**力と大いなる栄光をもって。そして、大いなるラッパの音とともに御使いたちを遣わし、天の果てから果てまで、四方から選ばれた者たちを集めるであろう。」

この文の最初の2つの単語は次のように翻訳することもできます。「**すぐに**」翻訳すると次のようになります。「**すぐに あの頃の苦難**太陽は暗くなり、月は光を放たず、星は空から落ちるだろう。そして天体は揺り動かされるであろう。その時、人の子のしるしが天に現れるであろう。そして、地上のすべての民は人の子を見て嘆き悲しむであろう。**天の雲に乗ってやってくる**力と偉大な栄光をもって。そして彼は、大いなるラッパの音とともに御使いたちを遣わし、彼らは天の果てから果てまで、四方から選ばれた者たちを集めるであろう。」

翻訳された単語**後**は **メタ** そして、次のように翻訳されます。**と** 新約聖書では345回、そしてわずか88回**後**つまり、そこで使われる単語は、ほぼ4倍の頻度で、**後**は次のように翻訳されます**と** 新約聖書全体を通して。メタは、**真ん中で、一緒に、または いつ。すぐに** そして **直後**2つの異なる意味です。どちらの翻訳も正しい可能性があります。主は私たちに伝えようとしていたのだと思います。**始める** 大患難の時、このしるしが天に現れるとき、**終わり** 大患難の。

主は私たちに**三つ**その苦難の時代の始まりに現れる、注目すべき天の兆候：

1. 太陽は暗くなるだろう
2. 月は光を放たないだろう
3. 星は空から落ちてくるだろう



2026年8月12日、皆既日食で太陽が暗くなり、新月で月が光を失い、ペルセウス座流星群のピークで星が空から落ちてくるのを目にします。これは初穂の携挙のわずか3~4日前です。私は、初穂の復活/携挙が起こる3日前の2026年8月12日か13日にトランプ氏が殺害されるのを目撃する可能性が非常に高いと考えています。これは、キリストが殺害され、その3日後に初穂の復活が起こり、キリストが死から復活し、多くの聖徒たちが生き返って多くの人々の前に現れたというパターンに倣うものです。

2026年のユダヤ暦の春分前に聖書の新年が始まることに加えて、2026年8月12日にこの兆候が現れたことは、ユダヤ暦が神の暦から1ヶ月ずれていることを確信できるもう一つの理由です。ユダヤの人々は、この時期にユダヤ暦の6番目の月であるエルル月の始まりを祝うことになります。しかし、エルル月の始まりに関連する初穂祭はなく、もし大患難がエルル月に始まったとしたら、ユダヤ人が2026年の12月初旬にハヌカを祝うため、地上での5ヶ月間の裁きを行う時間が残らないでしょう。おそらくこれが、主が私たちに、その患難の日々のすぐそばに、空にこれら3つのしるしを目撃すると告げた理由でしょう。それは、2026年にはユダヤ暦が主の暦より1ヶ月進んでいることを知るためです。おそらくこれが、25年以上前に主が私に与えてくださった最初のパズルのピースが、1月1日が異邦人のラッパの祭りであり、新千年紀の始まりを表しているということだった理由でしょう。主は、2026年にユダヤ暦が祝うことになる暦より、主の暦が1ヶ月遅れていることを私たちに知ってほしいのです。

遅延期間が終了すると、第七の天使がラッパを吹き鳴らし、神の奥義(教会の初穂の携挙)が成就する時が来る。

ヨハネの黙示録 10:5-7 -すると、私が海と陸の上に立っているのを見た天使は、右手を天に上げ、永遠に生きる方、天とそこにあるすべてのもの、地とそこにあるすべてのもの、海とそこにあるすべてのものを創造した方にかけて誓って言った。**これ以上の遅延はありません**しかし、第七の天使がラッパを吹こうとする日には、**神の奥義は成就する**彼がしもべたちである預言者たちに告げたとおり
に。」

コリント人への手紙第一 15:51-53 -見よ、**謎をお見せします**我々は皆眠りにつくわけではない。しかし、最後のラッパの音とともに、瞬きする間に、一瞬のうちに、我々は皆変えられるだろう。**ラッパが鳴り響くと、死者は朽ちない体によみがえり、私たちは変えられる。**



神の奥義は教会の携挙である。黙示録10章の天使は、もはや遅延はないと言うが、これは遅延があったことを意味する。マタイによる福音書25章で花婿が遅れ、乙女たちが眠りに落ちたと記されているのと同じである。

ハバクク書 2:3 -ビジョンはまだ**指定された時間**それは終わりのことを証言し、嘘をつかない。**遅れても待っててください。必ずやって来ますし、遅れることはありません。**。

神は携挙の時を常に定めておられます。神はその時を変えたり、遅らせたりはされません。遅延は、神が私たちにその計り知れない愛、憐れみ、そして忍耐を示すための、驚くべきパズルの一部なのです。神は何度も裁きを下すことができたにもかかわらず、選ばれた者たちのために、聖書で可能な限り短い期間にまで引き延ばし、その日数を短くしておられます。このパズルはすべて、神の憐れみ、恵み、そして子供たちへの計り知れない愛を表しています。神は誰一人滅びることを望まず、すべての人が御子を通して永遠の命を得ることを願っておられるのです。

皆さんのほとんどは、この聖句に基づいて、イエスがいつ来られるかは誰にも分からないと教えられてきたことでしょう。

マタイによる福音書 24:36、マルコによる福音書 13:32しかしそれについては**日または時間**誰も知らない。天の天使たちも、御子も知らない。ただ父なる神だけが知っている。

しかし、ヨハネの黙示録3章には、これとほぼ正反対のことを述べているように見える一節があります。ヨハネの黙示録 3:3 -「だから、あなたがたが受けたこと、聞いたことを思い出し、それをしっかりと守り、悔い改めなさい。もしあなたがたが目覚まさないで、わたしは盗人のように来る。そして、わたしがいつあなたがたのところに来るか、あなたがたは知ることができない。」

ここでイエスは、私たちが目を覚まさないで、イエスがいつ来られるか分からないと教えています。マタイによる福音書24章36節で「知る」に使われている言葉は、ヨハネの黙示録3章で使われている言葉とは異なります。

ギリシャ語は英語よりも単語の区別がはっきりしていることが多い。例えば、英語では「love」という単語を一つだけ使うが、ギリシャ語には「愛」を表す単語が4つもある。agápe、éros、phília、storgēで、それぞれ少しずつ意味が異なる。同様に「知る」という単語もギリシャ語にはいくつかあり、どれも全く同じ意味ではない。

マタイによる福音書24章では、「知る」という言葉はeidoで、この言葉の最も適切な定義は「何かを知覚する」です。黙示録3章では、この言葉はginoskoで、最も適切な定義は「知るようになる、または知識を得る」です。マタイによる福音書24章36節でイエスが言っていたのは、この日やこの時(これは時期のことではなく、単に主の日に何が起こるかを指しているのかもしれませんが)について、生まれながらにして知識を持っている人、直感的に知っている人、知覚できる人はいないということだと私は信じています。イエスご自身でさえ知りません。天使たちでさえ知りません。しかし、これは誰も知ることができない、あるいは知ることができないという意味ではありません。黙示録3章は、あなたが目覚めていれば、イエスがいつ来るかを知ることができる(知るようになる、または知識を得る)ことを明確に示しているようです(そして間違いなく時期について述べています)。イエスは、眠っている人(霊的に)にだけ盗人のようにやって来ます。マタイによる福音書24章を読み進めると、イエスはこう言っています。「だから、目を覚ましていなさい。あなたがたの主がいつ来られるか、あなたがたにはわからないからです。」これは26節で使われている「知る」と同じ言葉です。イエスは、私たちが直感的にいつ主が来られるかわからないからこそ、目を覚ましていなさいと警告しているのです。

何に注意すべきか？しるしに注意し、預言を研究しなさい。そうすれば、夜中の泥棒のように突然この日が訪れ、家に押し入れられるようなことにはならないでしょう。イエスは私たちにこのたとえ話をしています。もし家の持ち主が泥棒が夜の何時に来るかを知っていたら、泥棒が犯行に及ぶのを現行犯で捕まえられるように見張っていたでしょう。イエスは、私たちが聖書に残された預言やしるし、数字を研究し、イエスがいつ来られるかを知りたいことを望んでおられます。イエスは私たちが不意を突かれて取り残されることを望んでおられません。

マタイによる福音書24章を読み進めると、イエスはこう言っています。「しかし、もしそのしもべが悪人で、『主人は長い間帰ってこないだろう』と心の中で思い、同僚のしもべを殴ったり、酔っぱらいと飲食したりするなら、そのしもべの主人は、彼が予想もしない日、彼が知らない時間に帰ってくるだろう。」

不忠実な僕には、イエスは彼が知らない時に来られる。忠実な僕には、そうである必要はない。もし私たちが終わりの日の出来事のタイミングを理解することが決して許されないのであれば、聖書はなぜこれほど明確に、注意すべき出来事や数えるべき数字を与えているのだろうか。私は、後に残される人々に、起こったことがまさにその時に起こると預言されていたことを確信できる何かを残したい。そうすれば、彼らは携挙を隠蔽するためにやってくる大きな欺瞞に騙されないだろう。サタンは人々を欺く方法を計画するのに多くの時間があつた。彼は人々が携挙が起こったことや預言が成就していることを信じることを望んでいない。イエスは、可能であれば選ばれた者さえも欺くような大きな欺瞞が起こることを警告した。私の願いは、この欺瞞を暴き、聖書に基づいてこの出来事がまさにその時に起こると預言されていたことを証明し、起こったことが実際に携挙であり、イエスがすべてを支配しておられ、その御言葉が真実であることを人々に確信させることです。

主が皆様一人ひとりを祝福し、御言葉の中に素晴らしいものを見出すことができるよう、皆様の目を開

いただきますように。私たちが生きるこの時代、そして2027年1月に地上に神の王国が設立される日がいかに近いかを、皆様が理解できますように。この資料を用いて、迷える人々を救い、神の民に、神の計画における私たちの現在地を示してください。